

高校の授業中、歴史の資料集をみるのが大好きだった。暇さえあれば眺めていたが、今も時々思い出すページがある。中東から日本までの様々な塔が描かれたページだ。中東はエジプトのオペリスクのようなそびえ立つ石の塔、インドや東南アジアはストウバーのような丸みを帯びた塔、中国は鐘楼のような木造の塔で、日本は五重の塔が描かれていた。どちらがどちらに影響したかは定かでないが隣同士はどこもよく似ていた。歴史の中で人々や情報が行き交い、隣国の塔を研究し熟成させて独自の塔が生まれたのだろう。教室の片隅で、ひとり、歴史の大河を妄想して胸を熱くした！

同じことを感じたのは二〇代でNHKのディレクターをしていた時、アジア各地の獅子舞をたどる正月特番の取材中だった。インドの獅子舞はヒンズー教の神々、中国北部では五頭だての毛むくじやらの獅子舞、中国南部ではきらびやかな曲芸する獅子舞。ベトナムにもバリ島にも独自の獅子舞があり、韓国では平たい仮面の赤と青の二頭だて。日本にたどり着いた後なんと三〇〇〇ものバリエーションとともに地域に根付いていた。佐賀や熊本では、韓国の仮面獅子舞や中国北部の毛むくじやらの獅子舞そっくりの型に出会った。ま

プロフィール
1971年、東京都生まれ。映画監督。NHKを経て独立。現在はドキュメンタリーを中心に制作。作品に『にがい涙の大地から』（2004年、黒田清・日本ジャーナリスト会議新人賞）、『ビューティフル アイランズ ～気候変動 沈む島の記憶～』（2009年、アジア映画基金AND賞、プロデューサー／是枝裕和）など。2013年、自身の出産と放射能をテーマに新作発表予定。www.kanatomoko.jp



一つの塔、一つのダンス、一つの言葉。

海南友子

た、赤い獅子頭に唐草模様の獅子舞や、東北の一人踊りの獅子舞など日本独自のものが育まれたことが歴史の中の奇跡に思えた。

そして一番最近では四年前に地球温暖化をテーマにしたドキュメンタリー映画の制作をしていたとき、南太平洋のツバルで、果物や動物の名前にハワイやインドネシアと同じ単語が使われていること、またそれが微妙に別の使い方であることに気づいた。どれだけ時間をかけて人々が島を移動して同じ言葉がちらばったのかと感嘆した。

一つの塔、一つのダンス、一つの言葉。名もなき人々が商売や宗教、戦争など悲喜こもごもの理由で交流を重ねてきた中から、かけがえない独自の文化が生まれた。残念ながら最近では移動手段や通信が発達しすぎて隣国の文化を熟成させて独自文化を生み出すことは難しくなってきた。でも、同じ服を着て、同じケータイを操り、同じニュースに涙する私たちは、別の形の新しい文化を形成しているのだとも思う。新しい文化はやがて歴史の一頁となり、何千年か後、誰かが私と同じように胸を熱くするのかもしれない。悠久の歴史、その中から生まれる奇跡の連続。私もそのひとつにならいたい。

月刊
みんぱく
2月号目次

- | | |
|--|--|
| <p>1 エッセイ 千字文
一つの塔、一つのダンス、一つの言葉。
海南 友子</p> <p>2 特集
はじめに光ありき</p> <p>2 生体リズムと光 土居 雅夫</p> <p>4 衣装デザインと光 上羽 陽子</p> <p>5 光のふるまいから見る現代建築 塚本 由晴</p> <p>7 日本絵画における“光” 木村 重圭</p> <p>9 資料保存と展示と光 園田 直子</p> <p>10 研究フォーラム
民博の北方先住民コレクションの再検討
齋藤 玲子</p> <p>12 みんぱく Information</p> | <p>14 地球ミュージアム紀行
マケドニア博物館のお宝
ゴールデン・ニコロフ</p> <p>16 連載リレー 知の収蔵庫
CRPS とこんにちは! その3
「痛い」を伝える難しさ
菊澤 律子</p> <p>18 多文化をあきなう
フェアトレードを学ぶ、フェアトレードで学ぶ
織田 雪江</p> <p>20 異聞逸聞
あらたな聖地巡り
岩谷 洋史</p> <p>21 みんぱく私達の逸品
メノラー
菅瀬 晶子</p> <p>22 フィールドで考える
リセットされつづける酒場の時間
中田 梓音</p> <p>24 次号予告・編集後記</p> |
|--|--|